



発行所  
埼玉県立不動岡  
高等学校学友会  
加須市不動岡  
1-7-45  
電話 0480(61)0140

### 「学友会について思うこと」

学友会会長 大橋 良一(78回生)



皆さん、今日は。学友会長の橋本良一です。突然ですが、不動岡高等学校の卒業生の数

皆さんはご存知でしょうか？平成25年度末で約3万人の卒業生の方がいます。さらに、「学友会だより」をご覧になっているあなたを含め、不動岡高等学校卒業生のほぼ全てが学友会員であるということもご存知でしょうか？

ご自身が卒業生であるという自覚はあるかと思われませんが、学友会員であるという自覚はあまりないのではないのでしょうか。県内にある他の高校と比べ、残念ながら学友会活動があまり活発でなかったため、このような状況になっているのではないかと思います。

そこで、今回は学友会の現状について少しお話をさせていただきます。間もなく不動岡高等学校は創立130周年を迎えます。学友の皆さんにとりまして、青春時代の一時期を過ごした場所であり、少しでも心の拠り所となるべく、より一層学友会活動の活性化に向けて、学友会では様々な「改革」を進めています。

例を挙げますと、①学友会ホームページのリニューアル、②メール配信サービスの開始、③年会費の徴収などです。

ホームページでは学友会概要、同窓生News、在校生News、メール配信サービス、学友会事務局によるブログなどが掲載されており、一度ご覧いただければと思います。併せて、学友会に関する新着情報をお知らせするメール配信サービスにもご登録いただければと思います。

年会費については会則の記載を明瞭にするため総会にて承認を頂きました。

また、学友の皆さんも久しぶりに母校の名を新聞でご覧になったかと思いますが、第96回全国高等学校野球選手権埼玉県大会で4回戦まで勝ち進んだ野球部に対し、学友会から「三鯉のぼり」を贈らせていただいたり、今回第57号を迎える「学友会だより」の発行をしたりしています。学友会の一層の活性化のために、皆さんのご意見等をお寄せいただければと思います。

最後になりますが、会員の皆様をはじめ、在校生、保護者の皆様、そして先生方の御活躍をお祈り申し上げますとともに、今後も学友会の活動に二層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 学友会とともに

校長 阿久津利明



皆様の母校不動岡高校には、この春に第129回生367名が入学し、各学年普通科8クラスと外国語科1クラスからなる全校生徒1096名が活気に満ちた学校生活を送っています。そして、教職員もまた昨年度と同様に、常勤81名のうち24名が本校卒業生です。

今年度はスーパーサイエンスハイスクール(SHS)指定校として4年目を迎え、アメリカ合衆国で科学教育においてトップ校と評価されるトマス・ジェファーソン高校との交流活動を始めることとなりました。また、外国語科設置校として、さらなる国際交流の機会を設けることとし、ドイツでの交流活動を実現し、オーストラリアと中国、そしてフランス語圏に加えて、グローバルな体験活動の機会が拡大しました。また、す

つきり地域に定着した「不動岡市民大学」(事務局長・第86回生 船川喜正氏)により、本校が地域の文化活動の拠点としての役割も果たしています。ここで、この3月に卒業した第126

回生の進路状況の概要ですが、国公立大学71名、早慶26名、明治大学44名の合格者数は昨年の第125回生を上回り、上々の結果を出しました。国公立大学に関しては、浪人生の数を合わせると101名となり、近年にない3桁達成となりました。

部活動では、とくに野球部の夏の県大会4回戦進出の折には、大橋良一学友会長をはじめとして多くの学友会員の方々もスタンドにおいていただき、学友会からいただいた鯉のぼりを手にした在校生や教職員と共に大変盛り上がった応援になりました。さらには、陸上競技部が100mと200mそして棒高跳びの3種目でインターハイ出場を果たし、文化部からも音楽部と新聞部が全国高等学校総合文化祭に出場することができました。

そして、また、昨年度に引き続き、PTA会長を87回生の木村弘氏、後援会長を第96回生の梅澤義一氏にお務めいただいております。大変心強く思っております。

学友会の皆様には、ここで改めて日頃の御支援に対して深く御礼申し上げますとともに、今後とも、母校への変わりないお力添えをお願い申し上げます。

### 学友の集い(学友会総会)にご参加ください

恒例の学友の集いを下記のとおり開催いたします。創立130年を迎える母校を、ご自身の目でご覧頂きつつ、旧交を温めて頂ければ幸いです。お誘い合わせのうえぜひご参加ください。

日時 平成26年11月16日(日) 午後2時より  
会場 埼玉県立不動岡高等学校

総会議事  
①平成25年度会務報告  
②平成25年度会計報告  
③慶祝者表彰  
④その他  
本校OBによるガラコンサート  
懇親会 午後3時半より  
不動岡百周年記念館にて  
懇親会費 3,000円  
(当日受付させていただきます)  
お問い合わせは  
☎0480-61-0140まで

### 平成26年度 慶祝者名一覽

63回生	中島 貞一	瑞宝小綬章
羽3回生	吉田 文則	旭日双光章
葛9回生	桐川 卓雄	瑞宝小綬章
72回生	洪沢 和子	瑞宝单光章
74回生	小菅 勲	瑞宝双光章
74回生	土谷 順子	瑞宝单光章
85回生	宮本 雅史	日本医科大学教授
87回生	田村 隆信	
87回生	岡安 一雄	加須市立高柳小学校校長
87回生	岡村 正昭	越谷市立増林小学校校長
88回生	下川 孝広	大宮北特別支援学校校長
88回生	鈴木 紀之	宮代町立須賀中学校校長
89回生	岩崎 権威	埼玉県加須農林振興センター所長
89回生	酒井 春雄	加須市立豊野小学校校長
89回生	大島 徹	久喜市立江面第一小学校校長
89回生	吉田 正	上尾市立大谷中学校校長
90回生	石橋 桂子	企業局管理部長
90回生	木村 純	春日部市立豊野小学校校長
91回生	橋本 和人	越谷市立桜井小学校校長
95回生	大谷 昌利	白岡市立白岡中学校校長
96回生	高宮 明洋	幸手市立東中学校校長 川口市立根岸小学校校長

# 学友会NEWS

## 学友会活性化委員会報告

一昨年の学友会総会出席者のあまりの少なさに驚いた私は、驚くと同時に危機感を覚え、近く130周年を迎えようとしているこの伝統ある不動岡高等学校学友会をこのまま衰退させてはならないと、会長から私を「活性化担当副会長」に任命して戴き、活性化のため動き始めました。以来、今までに二〇回の活性化委員会を開き、学友会の学校からの自立、ホームページのリニューアル、支部組織の拡充等々山積する課題の一つ一つを解決するための会議を重ね、実行に移して参りました。活性化の為に第一にすべきことは、会員の皆様に現在の学友会の財政的窮状を知って頂くことであるという意見も出ました。今後130年の伝統に恥じない確固たる学友会を目指して委員一同、一層努力を重ねていく所存ですので、会員の皆様のご理解とご協力をお願いして活性化委員会の経過ご報告と致します。

文責 船川 喜正(86回生)

## 第八十六回 同窓会

第八十六回生の同窓会は百周年記念ホールで約百五十人が集う、盛大なものとなりました。

二〇三年はちょうど卒業四〇周年にあたり、誰もが人生の荒波を乗り越えて今日まで生き抜いてきた自信にあふれていました。還暦を前に第二、



第三の人生を考えるこの時、誇り高さ不動岡高校で青春時代を過ごした友との再会は、

それぞれの今後の人生に新たな希望や生きがいを見出すことでしよう。そして共に老いていく中で数々の喜びや悲しみを少しでも分かち合うことができればこれほど素晴らしいことはありません。

現にこの同窓会のあと、ゴルフやサイクリングを定期的に開催したり、女子会やかつてのサークル仲間の集いなどが行われています。たった三年間の高校生活は、卒業四〇年を経てもまるで昨日のことのようにいともたやすく蘇ってしまうのです。

来年は還暦同窓会を行うとも聞いています。素晴らしい八十六回生に幸あれ！

文責 川島 幸雄(86回生)

## 同窓会(クラス会)によせて

去る六月二十九日曜日においら達八十四回卒業生三年八組四十七名は還暦を迎えたことを記念し同窓会(クラス会)を開催しました。二ヶ月程前からの準備でしたから、開催案内を送った時には、すでに予定が入っていた者もいて、参加は二十名と人少でしたが、母校に集い楽しいひとときを過ごしました。

参加者は午前十一時に集合(遅刻者一名)、玄関前にて記念撮影、その後、在学当時とは内外共にすっかり変わった学校を、小野田教諭の案内と説明を頂きながら見学させて頂きました。

学校は発展的变化でしたが、おいら達の姿は頭が薄くなったり、お腹がでたり、皺が増えたりと、当時の面影を残しながらも『老化』と言う後退的变化が進んでいました。しかし、気の衰えは微塵もなく皆精力的に今後のことを考えていました。

一同は校内見学の後、記念館食堂に入り飲食を楽しみながら、近況報告をしたり、当時の思い出話を花を咲かせたり、また、久しぶりに会った旧友と情報を交換したりと楽しい三時間を過ごしました。

次の同窓会は期間を空けると居なくなつ



残念でした。岩崎先生と共に級友の川田春雄君、三ツ林隆志君のご冥福を祈りたいと思います。

最後にこの度の同窓会で大変お世話になりました小野田教諭に衷心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

同窓会参加者代表 小菅 法倫(84回生)

## 現在の不動岡高校

### 本校のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の取組

本校は23年度にSSHの指定を受け本年度で4年目になります。科学的素養を身につけ、生涯にわたって「科学」に対する意識を持ち、持続可能な社会の創造・発展に貢献できる人材を育成することを目標として取り組んでいます。SSH基礎ステージにおいては、1・2年次全員を対象として、SSH応用ステージにおいては2・3年次全員を対象としています。理系選択者を重点対象としています。SSH発展ステージにおいては、3年次理系選択者を対象とします。また、科学系部活動(SSC)においては、全年次から希望者を募ります。

SS課題研究 SSH応用ステージにおいて理系選択者全員が探究活動を行います。ユニット授業などの取り組みを基にして、生徒自身が課題を設定し、最終的にはその研究

成果をレポートにまとめます。優秀な研究については校外での発表も行います。

ユニット授業 この授業は数時間を一つの単位として、本来の授業とは別に、授業時間内または課外時間に設定する特別な授業です。「科学的素養」の育成を目指して、全教科でユニット授業を展開しました。履修者全員を対象としたユニット授業のべ時数は、25年度は65分を1コマとすると1年次1155コマ、2年次36コマ、3年次23コマ行いました。希望者を対象としたユニット授業は16ユニットのべ158時間行いました。研究成果の発表を2月の第1土曜日にパストラル加須にて行いました。

SS不動岡アカデミー 科学に対する興味・関心を高めるため、また、SS課題研究の一助とするために、1・2年次の生徒を対象に校外での学習活動(大学や博物館における公開講座など)に参加した生徒に対し、参加した時間に応じて単位を認定します。

国際性の育成 24年度は姉妹校のオーストラリアのキングガロイ高校と小豆プロジェクトとして外国語科の異文化理解の授業で行いました。25年度はさらに発展したいという有志がSSCの中で日豪のデータ比較による研究を行い、東京大学での「高校生科学シンポジウム」に参加し、英語で発表を行いました。また、本年度は3月にアメリカのトーマスジェファソン高校へ行き、科学研究のプレゼンテーションを行う予定です。そのために、科学研究はもろろん、英語でプレゼンテーションができるようにプロジェクトチームを組み指導を受けています。

SSC活動報告 物理、化学、生物、天文、数学、情報の6分野のべ107名が所属しています。主な活動は8月SSH生徒研究発表会(パシフィコ横浜)、9月3校(不動岡、春日部、越谷北)合同サイエンス教室、10月科学の甲子園埼玉県予選会、11月高校生によるサイエンスフェア、小中学生のためのサイエンス教室、SSH生徒研究発表会(パストラル加須)等で研究成果を発表しました。

訪問地は、ノルトラインヴェストファーレン州ラインバレー地域/ボン・ケルン/ドルステンでした。

## 海外研修 オーストラリア

7/31(木)〜8/13(水)の14日間、生徒20名と引率教員2名でオーストラリアキングロイへの研修を行う。

キングロイは決して都会とは言えない場所である。学校に通うために畑しかないような道を車を100キロで飛ばしていく。都市に行くのにも車で片道2時間かかる。だが、それだからこそ、高校時代に滞在するのには絶好の場所であると私は考える。キングロイは自然にあふれていた。バンヤマウンテンでは多くのオーストラリア固有の動植物を見ることができた。また、移動途中にはカンガルーが跳ねているのを眺めることができた。何より、キングロイの人々はおおらかに親切であった。私は初日のモーニングティーの光景を忘れられない。家庭科を受講している生徒が、長机2つ分のお菓子を用意してくれた。現地の英語の先生は生徒の興味を引く授業をしてくださり、大学では人数が足りないというトラブルがあったのだが、数人の先生方がお忙しい中協力してくださった。そのような環境の中で2週間過ごせたのは、英語学習と異文化理解への大きなモチベーションになったと思われる。生徒には、今回の研修で得られたことを忘れずに、一層学習に励んでほしい。

文責 曾山 なつみ

## 海外研修 ドイツ

8/20(水)〜27(水)の8日間、生徒27名と引率教員2名で、今年度よりドイツへの研修を行いました。

1日目：成田→アムステルダム経由→フランクフルト(所要時間…約14時間)  
2日目：午前…ドイツのワークショップ(ド

須)等で研究成果を発表しました。

文責 小野田 幸夫(85回生)

イツ人講師2名・地理、歴史、語学)  
 午後：古城見学および、ライン川クルーズ  
 3日目：午前：ボンの小学校訪問(英語の授業に参加)、ペートルベンの生家見学  
 午後：ケルン大聖堂見学、夜から、ドルステンにおいてホームステイ(4日間)  
 4日目：午前：ドルステン市庁舎を訪問(市長から挨拶をいただく)  
 午後：ホストファミリーと過ごし、夜、ホストファミリーと歓迎パーティー  
 5日目：午前：ドルステン市街を現地ガイドのもと見学  
 午後：ホストファミリーと過ごす  
 夜：BBQ(ホストファミリーとともに)、その後、日本の文化について、英語でプレゼン  
 6日目：午前：ドルステンの高校を訪問(3時間授業に参加)  
 午後：古城見学

7日目：午前：再び高校を訪問(本校生徒がパフォーマンスを披露)その後、デュッセルドルフより、帰国  
 朝晩の気温は9℃、日中でも20℃以下の乾燥した気候のもと、ドイツの自然、文化、そして現地の人々に会い、生徒達は異文化に十分に触れ、そしてコミュニケーション能力を向上させたものと思われれます。また、日本の文化や魅力についても、プレゼンや手作りの日本文化紹介の冊子を通して、現地の人たちに伝えられたことと、思います。



文責 齊藤 雅春(92回生)

**野球部 全国高等学校野球選手権 埼玉県大会 4回戦に勝ち進んで**

以前に4回戦に進んだのが10年ほど前とのことと聞き、もう少し勝ち残らなければ、思いを新たにしました。勝ち進むことの楽しさをチーム一同実感しました。

1回戦でノーヒット・ノーランを達成して勢いがついたので、エースが右指を負傷して打球不能になり、チームに緊張感が生まれまして。2回戦の深谷商業とは、よく練習試合をしていたので、やりやすい感じでした。3回戦はシード所沢との対戦であり、あこがれの大宮公園球場で試合ができました。就任から5年、3度目の挑戦で3回戦の壁を突破できました。4回戦の蕨戦は、延長11回までいきましたが、9回までに決着すべきでした。打線が不調で、相手の好守にも阻まれました。大勢の観客が入り、この中で試合ができて幸せでした。  
 1・2年生はこの貴重な経験をしたので、来年も今年以上の結果を出したいと感じたようです。応援ありがとうございました。  
 野球部顧問 田高 昌幸

**応援部 (応援指導)**

母校を誇りその尊厳を護る。また大団旗を掲げ、全校生徒の声を一つにまとめ選手が実力を発揮できるようにエールを送る。これは伝統校の応援部ならではの活動と想っています。  
 本校応援部は昭和40年に中村滋OB(初代団長)を中心に19人の有志の手によって、活動が始まりました。また六校応援団連盟唯一の共学校でもある本校では、校長先生を含む学校側・応援部OB会、現役部員の合意により、平成20年より女子にも応援部(応援指導)への入部の門戸を開放。そして現在は夏の野球応援後に代替わりとなり、数えて51代目の団長となつています。(また平成20年にはチアダンスチームDROPSもチームごと応援部に合流。より華やかな応援となりました。)

現在の年間活動は、全校集会の校歌リーダー、関東：全国大会への壮行会、野球：ラグビー：水泳の試合応援、学校説明会の中庭公演、文化祭2日目「不動の集い」、埼玉会館でのインターハイ埼玉県選手団壮行会、そして



最後にこの活動に物心両面の支援をいただいております応援部OB会の皆様、この場をお借りして深く御礼申し上げます。  
 応援部顧問 石川 憲司

**水泳部 関東大会**

今年度水泳部は7名の新入部員が入り、25名で活動しています。全員が向上心を持って練習に取り組み、大会でも毎回良い記録を出しています。  
 その中で、6月下旬に行われた学校総合体育大会県水泳競技大会において、200m背泳ぎ、渡邊勇輝(3年)が入賞を果たし、併せて関東大会標準記録を上回り関東水泳競技大会への出場権を得ました。昨年度に続いての関東大会出場ですが、埼玉県のレベルが上がっている中での連続出場は立派です。  
 今年度の関東大会は千葉県国際総合水泳大会で7月23日～25日に行われました。本校から1名だけの参加で、さらに予選本での勝負ということでコンディション作りは厳しい状況でした。それにもかかわらず、レースでは埼玉県大会の決勝とはほぼ同タイムで泳ぎました。これも渡邊君の日々の努力と強い精神力によるものであると思います。彼の関東連続出場は不動岡高校水泳部にとって大きな業績となり、応援に駆けつけた他の部員たちへも強い刺激となりました。  
 水泳部顧問 松本 裕行

**陸上部 全国高校陸上選手権大会**

七月三十日から山梨県甲府市で開催された全国高校陸上競技選手権大会に竹田一平(三年)が100mと200mで、白石拓視(二年)が棒高跳で出場を果たしました。兩名とも決勝進出を目標に参加しましたが、残念ながら力を発揮することができず、予選落ちという結果で終わりました。大きな舞台で結果を出すことの難しさを感じた大会でした。この経験を今後に生かしてほしいと思います。  
 二名は十月に行われる日本ジュニアユース陸上競技選手権の出場が決まっています。今後とも支援の程よろしく願います。  
 陸上部顧問 小堀 泰代(86回生) 倉科 淳(95回生)

**音楽部 全国高等学校総合文化祭**

7月30日の交流会、31日の演奏会と2日間、いばらき総文2014合唱部門に参加しました。音楽部にとっては、平成4年の沖繩県、平成10年の鳥取県に参加して以来、16年ぶり3回目の出場になります。  
 演奏会は全国から41団体、42のプログラムを、ホールの収容人数の関係で、前半・後半と2部に分けて開催されました。単独校での参加は29校、合同での参加は12団体あり、本校は59名と、単独校の中では2番目に多い人数での参加となりました。  
 演奏曲は、「夜もすがら」という、鴨長明(かものちやうめい)が詠んだ3つの歌を組み合わせた情緒豊かな曲と、「Tempus」という組曲「天使のいる構図」の中の1曲で、谷川俊太郎の詩を歌にした、複雑なリズムで、曲名の通り風のような激しさを持った曲でした。会場には、保護者の皆様や校長先生も応援にいらしたとき、気持ちの込められた演奏をホール中に響かすことができたと思います。音楽部にとって、全国の合唱をする仲間と一堂に会することは大きな喜びとともに、貴重な体験となりました。  
 音楽部顧問 浅井 一郎

**新聞部 全国高等学校総合文化祭**

七月二十七日から二十九日までの三日間、いばらき総文2014新聞部門に参加しました。第三十八回になる全国高等学校総合文化祭は、筑波山をバックに「創造の花を咲かせよ 聳える筑波嶺 吹き抜ける文化の風」というサブタイトルに相応しい大会となりました。新聞部門では、百二十五校から二百八十二人の生徒が参加しました。初日の開会式の後、全国高等学校新聞「年間紙面審査賞」の表彰式があり、本校は昨年に引き続き優良賞と文化連盟賞をいただきました。新聞部門の主な活動内容は、四十七班が、六つのコースに分かれて取材をし、交流新聞をつくることです。一日目の午後は編集会議となり、翌日、私はJICA筑波研修センターと国土地理院に行くコースに同行しました。取材後、各班がオリジナルの新聞作りに取りかかりました。生徒達は記事に独自性を持たせようと、様々な角度から質問をしていました。  
 最終日に、交流新聞の講評がありました。各班の個性や特色を活かして、一つ一つの新聞に「○○賞」とバラエティーの富んだ賞がつけられました。閉会式では最後に、生徒実行委員長市村健二さん(茨城県下館第一高等学校)を中心に茨城県の生徒たちが、声を合わせてお礼の言葉を述べ、大会は閉会となりました。全国の新聞部員が力を合わせて新聞作りを通して、新たな視点や技法を学び合い、貴重な三日間を過ごすことができました。  
 新聞部顧問 神田 恵美子(98回生)



演奏曲は、「夜もすがら」という、鴨長明(かものちやうめい)が詠んだ3つの歌を組み合わせた情緒豊かな曲と、「Tempus」という組曲「天使のいる構図」の中の1曲で、谷川俊太郎の詩を歌にした、複雑なリズムで、曲名の通り風のような激しさを持った曲でした。会場には、保護者の皆様や校長先生も応援にいらしたとき、気持ちの込められた演奏をホール中に響かすことができたと思います。音楽部にとって、全国の合唱をする仲間と一堂に会することは大きな喜びとともに、貴重な体験となりました。  
 音楽部顧問 浅井 一郎

平成25年度 学友会年会費納入の方々

〔62回生〕小暮晶朗〔64回生〕小嶋悦雄〔65回生〕木村信子、小暮洋子〔66回生〕藤田宏〔67回生〕福島芳子〔68回生〕中沢秀夫〔69回生〕新井貞男、大貫巖、樋口忠孝、広瀬誠尋〔70回生〕荒川岩雄、梅沢義行、岡田文男、田代初江〔71回生〕新井栄二、石田勝己、木村孝夫、竹ノ内恒男、坪井孝夫〔72回生〕新井陽吉、加庭寿久、河野充宏、小寺順子〔76回生〕今津道子〔78回生〕大橋良一、岡野幸雄、鴨田文雄、清水松男、鈴木松蔵、塚田喜三、中野正一、中村滋、長谷川徹、矢沢民生〔79回生〕鴨田美智子〔80回生〕金子忠、日下部高雄、高橋拓治、田口正子、田口幸隆、藤田竹一〔81回生〕蓮沼嘉一、増田俊夫、宮浦平治〔82回生〕安藤功、黒須明海、田中元三郎、鳥海和彦、増田卓司〔83回生〕赤坂栄、鈴木一雄、松岡進〔北川辺1〕飯塚利雄〔84回生〕木村操、小泉勝巳、平澤清、三ツ木規之〔85回生〕遠藤次朗、小野田幸夫、齊藤修一〔86回生〕石井義久、駒井信亮、奈良高男、船川喜正、森田孝文〔87回生〕木村弘、田中利幸〔88回生〕白石薫、松永知子〔89回生〕武正章〔90回生〕小川毅彦、羽田邦弘〔91回生〕高橋宏晃〔92回生〕赤坂由美、佐藤厚子、隅田薫、八木雅子〔96回生〕梅沢義一〔101回生〕駒場慎一、武井房子、竹内友紀〔105回生〕日下部綾子〔123回生〕隅田茜〔定1回生〕秋山美佐保〔羽分11回生〕高橋利夫・岡村孝作（敬称略）

同窓会案内

左記日程で本校百周年記念館において、同窓会が開催される予定です。

平成26年11月8日(土) 第68回生  
平成27年4月26日(日) 第79回生  
平成27年8月 第99回生

二〇二四年度の 入試結果

進路指導主事 齋藤 勤 (86回生)

2014年度入試の特徴は、①18歳人口減少から大学志願者数が約2万人減少し、国公立大志願者もわずかに減少し、広き門となった。②文低理高傾向が続き、理系は難化。③昨年に続き、地元志向も強く、地方の受験生には、地元国公立大が難しいなら、首都圏の私立大学ではなく、地元私立大を受験する傾向があり、地方私立大も難化。④センター試験の平均点は大幅ダウンした昨年と比べ、文系で4点、理系で16点の上昇で大きな変動がなく、厳しい状況が続いたことがあげられる。

本校の入試結果は、国公立大学合格者が101名と、昨年より11名増加した。100名を超える合格者がでたことは、大きな成果であった。国公立大学では東京工業大学に1名現役で合格、また旧帝大の東北大学に2名、北海道大学に1名合格した。首都圏地元大学では埼玉大学22名、筑波大学7名、千葉大学3名、お茶の水大学1名、東京芸術大学2名、東京外国語大学2名、東京学芸大学2名、電気通信大学2名、宇都宮大学14名、群馬大学6名、埼玉県立大学10名など多くの合格者がでた。私立大学では、早稲田大学31名、慶應義塾大学7名、上智大学12名、国際基督教大学3名、明治大学57名、立教大学48名と難関私立大学の合格者が増加し、私立大学全体でも延べ1089名の合格者がでた。

過去3年間の合格者数（現浪計、私立大学は延べ人数）

Table with 4 columns: 大学名, 平成24年, 平成25年, 平成26年. Lists various universities and their admission numbers over three years.

Table with 4 columns: 大学名, 平成24年, 平成25年, 平成26年. Lists private universities and their admission numbers over three years.

人事異動

転出・退職

Table with 3 columns: 職名, 氏名, 転出先. Lists staff departures and retirements.

転入

Table with 3 columns: 職名, 氏名, 前任校(前勤務先). Lists staff arrivals and their previous schools.

訃報

宮内 哲夫 (54回卒) 前篤宮支部長 H26・8・25 逝去 謹んでご冥福をお祈り申し上げます

学友会事務局員募集

お気軽にお電話ください。 TEL 0480-61-0140

学友会ホームページ

http://gakuyu.fudooka-h.ed.jp

メール配信サービス

学友会では学友の皆様と親交を深めるために、メールによる情報配信サービスを始めました。右記QRコードでは是非ご登録下さい。

